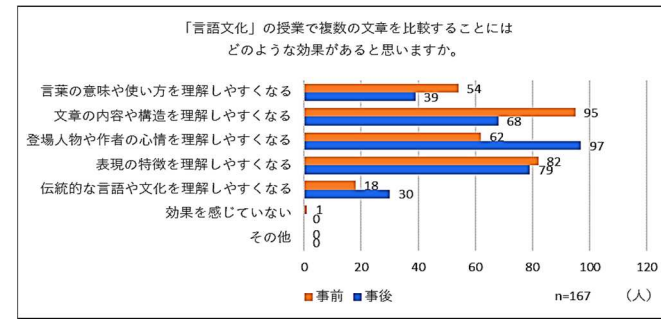


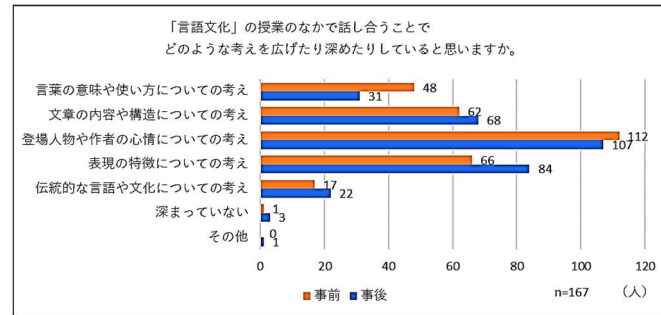
Ⅲ 実践の検証と分析

■生徒を対象としたアンケート調査から

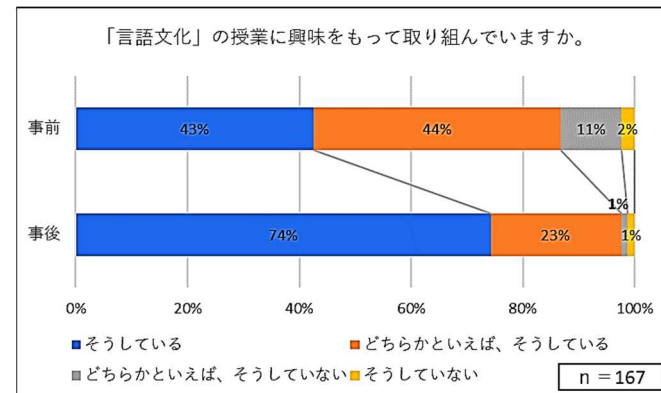
授業実践の前後に行った生徒を対象としたアンケート結果によると、読み比べる効果について聞いた右の質問では、「言葉の意味や使い方」「本文の内容や構造」を理解しやすくなるという回答よりも、「登場人物や作者の心情」「伝統的な言語や文化」を理解しやすくなるという回答が増加しました。このことから、読み比べる活動は、知識・技能を獲得し、本文の内容を把握することにとどまらず、人物の心情や我が国の言語文化について理解することに効果的であると分かりました。



話し合う効果について聞いた右の質問では、「文章の内容や構造」「表現の特徴」「伝統的な言語や文化」について考えを広げたり深めたりしたという回答が増加しました。このことから生徒は、比較して論じる活動を通して、個人で読み比べても気付かなかった歌物語の内容や構造、和歌の表現の特徴について相互に補完したり、新たな気付きを見出したりしながら、我が国の言語文化について考えを広げたり深めたりしていったことが分かりました。



学習意欲について聞いた右の質問では、「言語文化」の授業に興味をもって取り組んでいるという回答が大きく増加しました。このことから、読み比べ、比較して論じる言語活動は、生徒の興味を喚起する上で有効であることが分かりました。



また、[思考・判断・表現]について「満足できる」状況（A）または「おおむね満足できる」状況（B）であると評価した生徒は93.1%でした。このことから、多くの生徒が「読み比べ、比較して論じる」言語活動を通して、我が国の言語文化について自分の考えを形成したと検証することができました。

Ⅳ 研究のまとめ

■研究の成果

時代の異なる複数のテキストを読み比べ、比較して論じる言語活動は、生徒が我が国の言語文化について自分の考えを形成し、「言語文化」に対する学習意欲を高めることに有効であることが分かりました。このような言語活動を単元を中心にする中で、高校国語の課題である「講義調の伝達型授業」から脱却し、「言語文化」の授業を更に充実させることができます。

■今後に向けて

「文化としての言語」「文化的な言語生活」「多様な言語芸術や芸能」という幅広い分野からなる言語文化についての考えを一単元のなかで形成することは難しいため、どの時期に、どのように形成するか、年間指導計画の中で適切に設定する必要があります。また、単元の見通しや学習のすすめ方、振り返りの仕方などについての視点を生徒と適切に共有し、評価に生かすにはどうしたらよいかについて今後更に研究を深める必要があります。

研究報告書と補助資料は、下記の岩手県立総合教育センターのWeb ページに掲載しております。
<http://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/101koku.html>



研究主題

高等学校「言語文化」古典における 生徒が自分の考えを形成する授業に関する研究

—複数のテキストを読み比べ、比較して論じる言語活動を通して—

【研究担当者】長期研修生 菅原 将成
 （所属校 岩手県立盛岡第一高等学校）
 【この研究に対する問い合わせ先】
 教科領域教育担当
 TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562
 E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

■「言語文化」に期待されること

「言語文化」は、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化（文化としての言語・文化的な言語生活・多様な言語芸術や芸能）について理解を深める共通必修科目です。

「言語文化」では、我が国の言語文化を積極的に享受して、社会や自分との関わりの中で生かしていくという観点を養い、古典に対する生徒の学習意欲を高めることが期待されています。

また、学習指導要領では、言語活動を通して国語の資質・能力を育成することが国語科の目標であると示されています。言語活動を創意工夫し、授業改善を図ることが一層求められています。

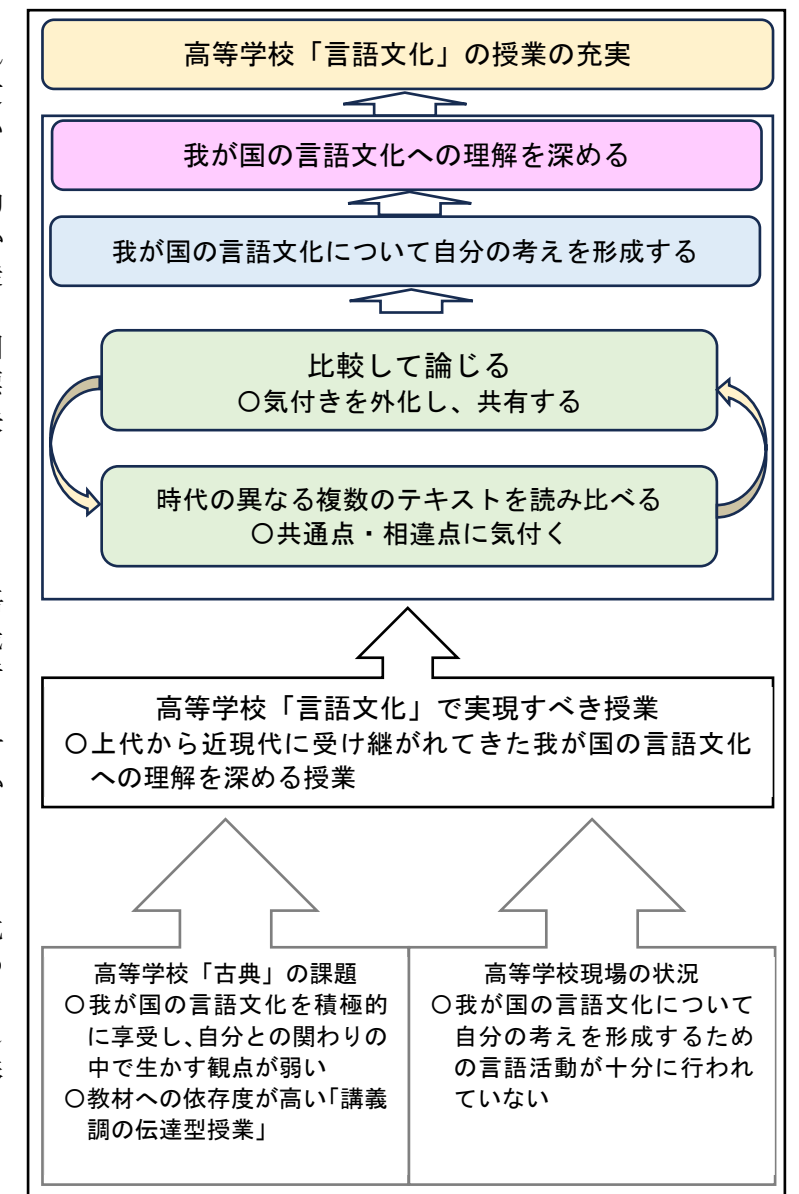
■「言語文化」の授業の現状

研究を進めるにあたって、県内高等学校国語科教員を対象に行ったアンケート調査では、我が国の言語文化を理解するために言語活動を行ったことがある教員は全体の23.1%と少ないことが分かりました。さらに、約1割の教員が、古典の授業で言語活動を行っていないことも分かりました。

■本研究の目指すこと

そこで本研究では、生徒が我が国の言語文化への理解を深め、「言語文化」の学習意欲を高めるために、異なる時代に成立した複数のテキストを読み比べ、比較して論じる言語活動を通して、我が国の言語文化について自分の考えを形成する授業を構想・実践しました。

【研究構想図】



研究の目的

高等学校「言語文化」において、複数のテキストを読み比べ、比較して論じる言語活動を通して、生徒が我が国の言語文化について自分の考えを形成する授業実践例を示し、授業の充実に資することを旨とする。

II 授業実践の様子

単元の構成

■資質・能力の育成

〔思考力、判断力、表現力等〕の目標を、「B 読むこと」の「考えの形成」に係る指導事項（1）のオに基づき、「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと」としました。「我が国の言語文化」については、言葉の文脈的意味を的確に把握して解釈に生かす〔知識・技能〕を育成するために、我が国特有の短詩形文学である「和歌」を扱いました。

■中心となる言語活動

生徒が我が国の言語文化への理解を深めるためには、時代の異なる様々な文章を比較することが効果的であると考えました。そこで、単元を中心とする言語活動を「異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、比較して論じたり批評したりする活動（（2）のウ）」に関連する活動としました。

■実践構想

具体的には、『伊勢物語』の和歌と、漢詩、短歌並びに近代詩など様々な作品を比較し、「和歌」の魅力について読み比べ、比較して論じ、自分の考えを形成する4時間の授業を構想・実践しました。

単元の課題：なぜ和歌は人の心を引きつけるのか、様々な文章を比較しながら考えよう

各時間の学習課題

第1時

昔の人は「うた」とはどのようなものかと言っているか読み取ろう
(課題の共有)

第2時

作中の和歌を、的確に解釈しよう
[知識・技能]

第3時

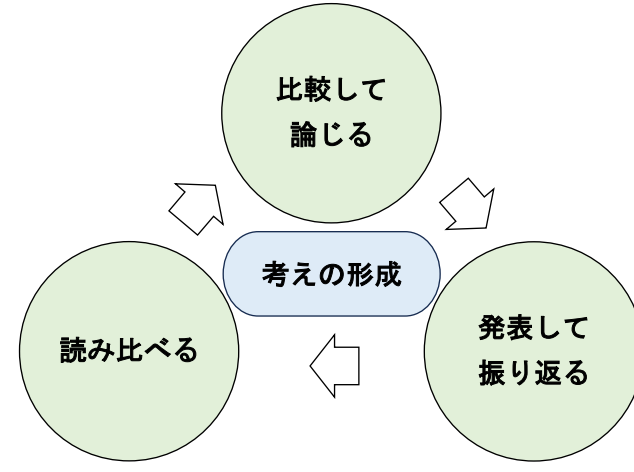
作中の和歌が、なぜ男の心を引きつけたのか捉えよう
[思考・判断・表現]

第4時

なぜ和歌は、人の心を引きつけるのか自分の考えをもとう
[主体的に学習に取り組む態度]

単元名：歌物語と詩や短歌などを読み比べ、和歌の魅力を考えよう
『伊勢物語』（桐原書店 探究言語文化）

言語活動のプロセス



手立て2：比較して論じる

■授業の実際

生徒は個人で読み比べ、気付いた共通点や相違点について、各時間の学習課題に沿って比較して論じました。この活動を通してお互いの気付きや考えを外化し、自己と他者の読み取りの差異に気付き、相互に影響を与えながら、作品の読みを広げ、深めていきました。

■使用したツール

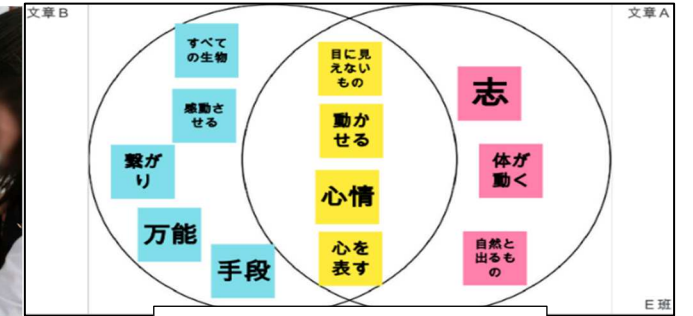
比較して論じる活動ではホワイトボードアプリの付箋機能を使用しました。比較して論じた内容を各班で1枚のホワイトボードに簡潔にまとめられることがホワイトボードアプリを使用するメリットです。

■班の編成

一班は3人一組で構成しました。また、端末は一班で1台使用しました。生徒は、3人で端末上のホワイトボードをのぞき込み、自由に付箋を移動させたり、付箋に書き込んだりしながら、比較して論じた内容をまとめていきました。



比較して論じる様子



生徒がまとめたベン図

手立て1：読み比べる

■教材の選定

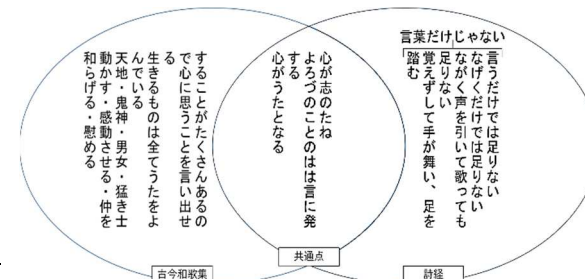
第1時は「うた」について書かれた『詩経』と『古今和歌集』の序文を読み比べました。第2時以降は、『伊勢物語』の「東下り」並びに「筒井筒」の作中歌と様々な文章を読み比べました。

「東下り」の作中歌：名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと
「筒井筒」の作中歌：比べこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずして誰か上ぐべき
比較対象となるテキストと選定した観点は下表のとおりです。

	第2時	第3時・第4時（前半）一班一つ選択する		
基となるテキスト	「東下り」	「筒井筒」		
比較対象テキスト	『都落ち』 J-pop	『秋浦歌』 漢詩	『みだれ髪』 短歌	『若菜集』 近代詩
共通点	「鳥」という題材に、恋人と別れ、都を離れる哀しみが詠みこまれている。	「髪」という題材に、成長や老化といった時の経過への感慨が詠みこまれている。	「髪」という題材が、大人になった女性の喜びや誇りなどの感情を表している。	「髪を上げる」という行為が、女性が成人することを表している。
相違点	『都落ち』は、自分のもとを離れていく恋人に対する思いをうたっている。	『秋浦歌』は、「白髪」を題材に、老いの哀しみをうたっている。	『みだれ髪』の短歌は、自分の黒髪の美しさを誇る女性の姿をうたっている。	『若菜集』の詩は、男性から女性に対する初恋のみずみずしい思いをうたっている。

■授業の実際

文章の内容や背景について分からないことは、何を使って調べてもよいことを伝えました。また、気付いたことは、簡潔に、できる限り多く書き出すように指示しました。生徒は二つのテキストを読み比べ、気付いた共通点や相違点を学習シートのベン図に書き込んでいきました。



生徒が作成したベン図（テキストデータに変換済）

発表して振り返る

■まとめた情報・意見を発表する

生徒は、班でまとめたホワイトボードアプリの画面をそのまま黒板に投影し、比較して論じた内容を発表しました。各班の情報や意見をクラス全体で把握することにより、班で話し合ったときには気付かなかったことや自分たちとは異なる考えに触れ、複数のテキストから得られた情報を更に多面的・多角的な視点から把握していました。

■振り返り、言語文化への理解を深める

単元の最後に、なぜ和歌は人の心を引きつけるのかについて、学習シートに記述しました。多くの生徒が、短い言葉に作者の思いが凝縮されていることや、間接的な表現によって伝える奥ゆかしさがあることなど、和歌の魅力について自分の考えを書いています。また、振り返りシートの記述からは、言語活動を通して、生徒が我が国の言語文化への理解を深めたことを読み取ることができました。



発表の様子

この単元を通して、日本の文化である和歌の価値を再発見した。いくつかの時代も形式も異なる歌を比較し、表現を学んだり、何を象徴しているのか何を伝えたいか考察する時間は、グループの人と色々なアイデアを交流できて楽しかったし、想像をふくらませるのも楽しかった。現代人は「好き」「良い」と簡単に言葉を発するけど、昔の人はあんなに表現を工夫して間接的に感情を伝えていたと思うと、とてもロマンチックで美しいなと思います。和歌の魅力をもっと見つけて昔の人のようにことばを大切にしたい。

生徒の記述（振り返りシート）